



インストール後の作業

この章では、Cisco Broadband Access Center (BAC) をインストールした後に実行する作業について説明します。

- [BAC のライセンス \(P.4-1\)](#)
- [Network Registrar スプーフィング DNS サーバの有効化 \(P.4-4\)](#)
- [BAC からアラートを受信するように syslog ユーティリティを設定する方法 \(P.4-5\)](#)

BAC のライセンス

この BAC リリースは、サービス ファイルを使用してライセンスングをイネーブルにします。これらのライセンスにより、BAC を使用する一連のサービスをプロビジョニングすることができます。各サービスは、システムでプロビジョニングされた 3 つの IP アドレスに変換されます。つまり、10,000 個のサービス ライセンスは 30,000 個の IP アドレスに相当します。ユーザが受け取るライセンス ファイルには、購入したサービスの数ではなく、ライセンスされている IP アドレスの数が格納されています。



注意

ライセンス ファイルは編集しないでください。何らかの変更を行うと、ライセンス ファイルは無効になります。

次の BAC コンポーネントに対しては、別のライセンスが必要になります。

- DPE
- KDC (音声技術をサポートするようにシステムを設定する場合)

DPE ライセンスはライセンス ファイルに含まれていて、管理者ユーザ インターフェイスからライセンス ファイルをインストールするときに、DPE がライセンスされます。前の BAC リリースと同様に、KDC ライセンスによって所有権が認められ、BAC インストール時にライセンスされます。

ライセンス ファイルの取得方法の詳細については、『*Release Notes for Cisco Broadband Access Center 4.0*』を参照してください。

ライセンス ファイルのインストール

ライセンス ファイルをインストールする前に、BAC ソフトウェアを再インストールする場合に備えて、ライセンスをバックアップします。

永久ライセンスまたは評価ライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ライセンス ファイルを受け取ったら、Web ブラウザを起動するローカル システムに各ファイルを保存します。

ステップ 2 ローカル システムで Web ブラウザを起動します。

ステップ 3 次の構文を使用して、管理者の場所を入力します。

`http://machine_name:port_number/`

- *machine_name* には RDU が動作しているコンピュータを指定します。



(注) HTTP over SSL (HTTPS と呼ばれる) を介して管理者ユーザ インターフェイスにアクセスするには、次のように入力します。

`https://machine_name:port_number/`

- *port_number* には管理者アプリケーションが実行されているサーバ側のコンピュータ ポートを指定します。デフォルトのポートは、次のとおりです。

- 8100 (HTTP over TCP の場合)
- 8443 (HTTP over SSL の場合)

メイン ログイン ページが表示されます。

ステップ 4 デフォルトのユーザ名 (**admin**) とパスワード (**changeme**) を入力します。



(注) 初めてログインした場合は、Change Password 画面が表示されます。新しいパスワードを入力し、確認します。

ステップ 5 **Login** をクリックします。

Main Menu ページが表示されます。

ステップ 6 Main Menu ページの一番上にあるライセンス リンクをクリックするか、**Configuration > License Keys** を選択します。

Manage License Keys ページが表示されます。

ステップ 7 License File フィールドに、ローカル システム上のライセンス ファイルの場所への完全パスを入力します。パス名を指定するときは、ライセンス ファイルの名前も忘れずに入力してください。

あるいは、**Browse** をクリックし、ライセンス ファイルに移動します。

ステップ 8 **Add/Upgrade** をクリックします。

サービスの数とライセンスされている DPE に関する詳細情報が表示されます。

KDC ライセンスのインストール

Cisco の担当者から KDC ライセンスを取得し、適切なディレクトリにインストールします。

KDC ライセンス ファイル (*bacckdc.license*) をインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco の担当者からライセンス ファイルを取得します。

ステップ 2 BAC ホストに root としてログインします。

ステップ 3 *BPR_HOME/kdc* ディレクトリに移動します。

ステップ 4 ライセンス ファイルをこの *BPR_HOME/kdc* ディレクトリにコピーします。



注意

ライセンス ファイルは、ASCII ファイル形式でコピーしないでください。ライセンス ファイルには、ASCII 転送時に望ましくない変更をされやすいデータが含まれています。

KDC ライセンス ファイルは、オペレーティング システム間でコピーしないでください。転送プロセスによって、ライセンス ファイルが破壊される恐れがあります。

ステップ 5 KDC サーバを再起動して変更を有効にするには、*/etc/init.d* ディレクトリから **bprAgent restart kdc** コマンドを実行します。

Network Registrar スプーフィング DNS サーバの有効化

スプーフィング DNS サーバは、すべての DNS 要求を同じ IP アドレスにリダイレクトします。スプーフィングをイネーブルにすると、新しい加入者にセルフプロビジョニングフローを適用できます。

たとえば、DNS ホストが `dns.example.com`、IP アドレスが `10.10.10.5` であるとします。また、セルフプロビジョニングフロー機能を持つ Web サーバが `10.10.10.6` であるとします。

DNS サーバで、次の Cisco Network Registrar のパラメータを設定します。

```
nrcmd> zone . delete
nrcmd> zone . create primary dns.example.com postmaster.dns.example.com
nrcmd> zone . addr * a 10.10.10.6
nrcmd> save
nrcmd> dns reload
```

DNS をリロードすると、変更が有効になります。

DHCP サーバで、次の Network Registrar のパラメータを設定します。

```
nrcmd> policy unprovisioned setoption domain-name-servers 10.10.10.5
nrcmd> policy unprovisioned setoption domain-name example.com
nrcmd> save
nrcmd> dhcp reload
```

BAC からアラートを受信するように syslog ユーティリティを設定する方法

システムからアラートとデバッグ情報を受信するように、あらゆる BAC コンポーネント サーバ上で syslog ファイルを設定できます。



(注) syslog ファイルの設定は、省略可能な作業です。

BAC は、Solaris の syslog サービスを通じてアラートを生成します。syslog は、クライアント / サーバ プロトコルで、UNIX での情報のロギングを管理します。BAC の syslog アラートは、ロギング サービスではありません。問題が存在していることは通知しますが、必ずしも問題の原因を特定しません。そのような情報は、適切な BAC ログ ファイル (*rdu.log* および *dpe.log*) にある可能性があります。syslog ファイルを設定すると、これらのアラートは別のログ ファイルに記録されます。

エラー メッセージとアラートの詳細については、『Cisco Broadband Access Center Administrator Guide 4.0』を参照してください。

Network Registrar 拡張ポイントと RDU サーバ上で syslog ユーティリティを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Network Registrar サーバに *root* としてログインします。

ステップ 2 コマンドラインでログ ファイルを作成します。

次の例を参考にしてください。

```
# touch /var/log/bac.log
```

ステップ 3 *vi* などのテキスト エディタを使用して */etc/syslog.conf* ファイルを開きます。

ステップ 4 */etc/syslog.conf* ファイルに次の行を追加します。

```
local6.info          /var/log/bac.log
```



(注) local6:info と */var/log/bpr.log* 情報の間に、タブを 1 つ以上挿入する必要があります。

ステップ 5 */etc/syslog.conf* ファイルを保存して閉じます。

ステップ 6 syslog ユーティリティが新しい設定を採用するようにするには、次のように入力します。

```
# ps -ef | grep syslogd
root      217    1    0   Jun 26   ?    0:00   /usr/sbin/syslogd

# kill -HUP 217
```



(注) プロセス ID (PID) は、この例では 217 になっていますが、`ps -ef | grep syslogd` の実行時には変わっている可能性があります。このコマンドからの正しい出力を `kill -HUP` への入力に使用してください。

syslog は、この時点で BAC からのアラートを受信できる状態になります。
